

が ん ば

島三小育友会報
発行部
発 報 部
広 報 部

【第85号】



初市いよいよ 春本番

親の期待と責任

会長 小島健一

昨年四月、会長の大役を引き受け、早や一年が過ぎ去ろうとしています。その間、役員、会員、先生方、地域住民、多数の皆様のご指導・ご協力を得て、予定された行事もほぼ達成されたようです。

もちろん、細かくとらえれば、改善すべき事も多く、今後更に意欲をもって、問題点の解決に努力する必要があります。

「いじめ」の問題も今や頂点に達した感があります。問題が発生するたびに、その原因、背景等が報道されます。昔も「いじめ」はありましたが、その内容、そして子供達の耐える力に相違があるようです。

「犠牲になった子供達にも問題があった……」これは加害者の論理だと思えます。いじめた子供達の責任、教師の対応が悪かった等々しかし、これらの社会現象は、私達大人の生活態度、家庭の対応にこそ問題があったのではないでしようか。

「三つ子の魂百まで」という言葉がありますが、幼児期の親の教育

こそが、その要因をつくつていていると思います。過保護であったり、あまりにも放任し過ぎたり、物欲一辺倒であったり……。

ただ、がむしやりに働きつづけた結果、思いがけなくも、世界に誇る経済大国となつて貿易摩擦に悩む日本。私達一人一人の暮しかつては思いもつかないほど豊かになっているのではないのでしょうか。住宅ローンや子供の教育費など、やりくりは必ずしも楽ではないでしょう。しかし、企業はつきつぎに新製品を出すし、どうしても買いたいものはあまりなく、生活はしぶん豊かになつた筈です。反面、失われた精神、「こころ」の問題があることも事実です。

今年も一七二名の生徒達が三小を巣立つて行きますが、じっくり時間をかけ物事に取り組む姿勢、相手を思いやる心を忘れず、恵まれた三小時代の教えを守つて、先輩達に負けない成長の歩みを続けることを、父母の皆様と共に祈つてやみません。

もちと人生

年はとるもの、とらぬもの……

校長 江崎 勝利

正月が近づくと、寒風に乗ってベツタン・ベツタンと餅つきの音が聞こえてきたのも今は昔。しかし、日本人にとって、餅は過去・未来にかけて切り離せないものである。

去る二月一日少年の日、六年生の餅つき大会を催した。写真では子どもは見学者になっているが、「こねる」「つく」という餅つきにとって重要な場面としてとりあげたものである。



強腰こねてしっかり

餅つきには、細かな手順と配慮と微妙な感覚がある。今、ここでそれを書けば餅のつき方になってしまおうので、今回はゆるゆるの「こねる」「つく」の効用の一部にふれてみたい。率直なところ、科学の進歩で機械餅が堂々と出回り、杵の音が消えたのと同じ時に、床の間や神仏に供える鏡餅の表面が、うるこ状態にはげるといふ現象が出る。珍現象が出る。もちろん艶もない。手づきの餅は、腰も強いし艶もある。その陰には、人間の新しい年を

迎えるために……という美しい心と、年はとつても、まだまだ元気だという立証と、きれいな餅につきあげるための忍耐力があるからである。

「昔の餅は雑煮に入れてもしっかりしていたが、このごろの餅はすぐに流れてしまう」という声を聞く。言うまでもなく昔の餅は、腰が強いことの証明である。腰が強いということには、①ねばりがある。②しなやかで折れにくいという意味がある。これを今の子どもに当てはめたらどうでしょう。根気がなくて、ガサガサしている……と言えないでしょうか。「なぜ、そうなるの?」答えは、目と耳と単に手先きで操ることに明け暗れ、からだをぶっつけての体験(経験)をしない・させないのひとことに尽きると言っても過言ではありません。

わが国では、古くから各種行事の中で、賀意を表わす晴れの食物として、餅はなければならぬもので、神とともに食することにより、つかれたものに力を与える重要な食事として、酒とともに神仏に供えられ、現在も続いている。年はとるもの、とらぬものと表題に書いたのも、毎年賀意の餅を食べ、年齢相応の教養を積み重ねてもらいたいし、年はとつても餅をつくだけの元気が持ち続けてもらいたいという願望からである。一話は変わるが、「餅は餅屋」ということわざがある。何ごとにも専門があり、素人はかなわないこと

のたとえである。これには、面白い話がある。ある日本人が、アメリカで、からだの調子をこわし、医者に診察してもらった。医者は「旅づかれの軽いノイローゼでしょう。心配御無用」と、薬はおろか、処方箋もくねなかつた。それで安心して帰ったが、翌日、十ドル余りの請求書が届けられたので驚いた。

しっかりとついでしなやかに!

そこで彼は、顔みしりの弁護士に電話で、「これはむちゃな請求ではないか」と相談した。すると、その弁護士は「それがこの国の商習慣だよ」と答えた。それで彼は仕方なく小切手でその代金を支払った。ところが、その翌日、この弁護士からも請求書が届き、今度こそ本当のノイローゼになってしまったという話である。昔は、何でもできる人が重宝されたが、現代社会は分業化が進み、それぞれが専門家として尊重されていく世代である。ふわふわで、流れに流される腰の弱い餅では、近づく二十一



世紀は乗り越せまい。お互いに専門性を発揮して、腰の強い餅になる努力をしていくことに、心魂を打ち込むときではなからうか。

(二部 福音館ことわざ小辞典から引用)

一年をふり返って

育友会副会長 江川 七重

この一年をふり返り、各専門部の活発な活動と、会員の皆様方のご協力も得られ、無事終えることができました。役員の皆様、会員の皆様、本当におつかれ様でした。とくに本年度は、新しい試みとして、父親参観を普通の日に実施され、お父さん、お母さんが、多数参加下さるだろうかと不安な気持ちでおりましたが、昨年と変わらぬ参加をいただき、育友会活動方針にあります、よき父よき母、手をつなぎ合う父母、このことが少しづつ会員の方々が、理解を深めて下さっていることを、まああたりに見て心よりうれしく思いました。これも校長先生はじめ、諸先生方、先輩の方々の努力のためものだと思ふ感謝した次第です。私は副会長として、自分が勉強するのがせいっぱいで皆様方の

足でまといになったことと思ひます。でも育友会会員として、又役員として多くの方々に、お会いしいろんなことを、経験させていただいたことを、心よりお礼申し上げます。

私ごとですが、桜の花が舞うなか、長女の手を引き、不安と期待のいりまじった気持ちで、第三小学校の門をくぐったことが、昨日のように思い出されます。あれから十三年間、三人の子供が、お世話になりました。今年、末の子が卒業して行くのだと思うと、親の方は淋しい気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、第三小学校と、育友会の益々のご発展と、皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

六年間を振り返って

前児童会長 松本 環



やわらかな春の訪れを感じる今日頃です。

卒業式をひかえ、小学校生活六年間を、ふり返ってみました。

喜びと不安との複雑な気持ちで、お父さん、お母さんに手をひかれ、三小の門をくぐったのは、ついこの間のように思い出されます。うれしかった事、楽しかった事、苦しかった事、かなしかった事、色々な事が、数えきれないほどあります。先生方の温かいご指導のおかげで私達は、色々な知識を学び、身心共に成長してきました。

白山バレーボールクラブに入り、チームワークの大切さを知り、こ

やわらかな春の訪れを感じる今日頃です。

卒業式をひかえ、小学校生活六年間を、ふり返ってみました。

喜びと不安との複雑な気持ちで、お父さん、お母さんに手をひかれ、三小の門をくぐったのは、ついこの間のように思い出されます。うれしかった事、楽しかった事、苦しかった事、かなしかった事、色々な事が、数えきれないほどあります。先生方の温かいご指導のおかげで私達は、色々な知識を学び、身心共に成長してきました。

白山バレーボールクラブに入り、チームワークの大切さを知り、こ

チビッコ憲法を守ろう

新児童会長 小島 健雄



ぼくは、いつもこんな学校になればいいなあと思っていました。まず初めは、いじめがない学校です。どうしていじめはおこるのでしょうか。相手の気持ちを考えることができれば、ぜったいいじめなんかないはずなんです。ぼくはいじめのない学校にしたいです。

つきに、チビッコけんぼうや白山運動のきまりを守る学校です。きまりを一人一人が注意しあい自分でも気をつかえば、きまりは守れると思います。そうやってきちんとした学校にしたいです。それとあいさつです。自分から「おはようございます。」といつて、

四月から中学生になります。中学校生活は、決して甘いものではないと思います。先生方の教えを大切に、自分自身の言葉や行動に責任を持ち、悔いのないよう、勉強、運動に一生懸命がんばってほしいと思います。

小学校生活も後わずか、淋しさで胸がいっぱいです。

どうか、素晴らしい歴史と立派な伝統をもつ第三小学校を、これからも皆さんの力で発展させて下さい。

相手の人も「おはようございます。」といつてくれるととても気持ちいいものです。あいさつは、学校内だけではなく、学校外でもきちんとできればいいなあと思っています。

そのためにもまず、ぼくたちが新六年生としての自覚をもち手本を示せば、他の人たちも必ずきちんとできるはずだと思います。

この三つのことがしげんとできるようになれば、りっぱな三小になると思います。

ぼくは、この三つのことを、児童会の仲間たちと取り組んでいきたいと思ひます。

6年間

先生に！

新山二丁目 式守悦子

年月の立つのは本当に早いもので思ひ起こして見ましても、何と充実した日々だったのかと、今さら三小に学べたことを、親子共大變うれしく感じております。

学年が進むごとに、成長して行く子供を見ておりまして、親の自信をなくしそうになり、思い過ぎしかとホッと胸をなでおろしたり喜んだり、毎日毎日が親子の学習みたいなのでした。

幸いにしてとても愛情深い熱心な先生に恵まれて、学級通信など、大変細かにクラスの内容など連絡いただき、学校の様子もよくわかり、子供もすくすく成長してくれました。それに、学年の先生方も横のつながりを密に取っていただいて、

最近社会問題にも大きく取りあげられております。

いじめも子供に聞かされても、みんな仲よくしている様子で、三小に関しては全く見あたらないようです。このように明るい広い心を持つ子供に指導して下さいました。子供達はまだ人生の一步二歩を歩み始めたばかりです。目標までの長い道のりを三小で教わったことを守りながら歩むことでしよう。子供達も喜びと不安を胸に卒業を迎えますが、私達親も学校と家庭のつながりが強かったせいか胸がいっぱいになります。

先生方、役員のみなさま、本当にありがとうございました。感謝いたします。



十七年間の思い出

中組町

木崎潤蔵

愈々三小育友会ともお別れの時が来ました。十七年間大変お世話になりました。

其の間、育友会活動にも色々とお手伝いも出来ず反省する事ばかりです。年度毎の育友会活動で、学級園の造成や運動場の整備、ベロキ塗り、土俵の整備、プール周辺の雑草取りなど大変な仕事でしたが、先生方と育友会が一体となつて和気あいあいと汗を流した事が今では懐かしく感じられます。長い間大変お世話様になりました。今後とも育友会の皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

或る期待

白土船津上

中川裕敏

あの小さかった子供がもう卒業とは、光陰矢の如しとはいふものの、月日の経過には驚かされる。その間、先生方の熱心なご指導と育友会皆様方の陰の力が相乗して、まがりなりにも人並に成長してくれていくことは、親としてこんな幸せなことはない。

末っ子とはいふものの、五十代にしてこの子ありで、四人姉妹の中で長女と二女は数年前に嫁いでいるので、実質的には二人姉妹のようなもの、私の年代では小さすぎるともいえることで、私の元氣な中に嫁がせて、親の責任を果すまではどうしても頑張らねばとこんなことばかり考えるようになってきた。

三十三年間の公務員生活にピリオドをうって、熱帯魚と金魚の店を開いたものの、不安が先立つ中に、時には学校帰りに店に寄って熱帯魚の世話をしてくれる子供を見る時きのやすらぎを覚える。大好き猫好き小鳥好き、どんな動物でも愛さずにはおれない子供は、これからの人生に、全てを愛するやさしい人間にきつと育ってくれるのではないかと、ひそかな期待を得て悦に入ることもある。ともあれ一段階上の義務教育が待っている。がんばれ吾が子よ。

ありがとう じぎょうました

崩山町伊 東 作 蔵

長髪におさらばして、坊主頭になった息子が、急に成長してみえるこの頃、卒業を迎えることになりました。季節の変わり目には、よく風邪を引き欠席も珍らしくなりました。高学年になると、ぐっと体力がつき、病すら寄りつかなくなりました。

入学の頃、教科書の絵をみて、どんな様子かをわいわい言っていた子が、今声変わりした低音で、いっぽしの理屈をいい、親ともちよつぱり世の中の事が話せるようになります。森山先生の担任にはじまり、縮くくりは本多先生。三小の先生方のばつちりのチームワークに支えられ、育友会の皆様の熱心なボランティアに助けられ、ひ弱だった子がたくましくなりました。親ではどうしていいやれない素晴らしい数々の体験をさせて頂きました。行事のあと、目を輝かせ得意そうに話す子に、これまたひとつ経験を積んだなど安堵するものでした。

中学へ進んでも、三小で培った力で、曲った事をはねのけ、まっすぐ進んでくれるでしょう。先生方の御苦労に添えてほしいもので、三小ありがとうございました。

思い出の

いじめに思う

下川尻 伊藤勝彦

健やかな心
判断するもので、自分勝手な性格
は、多少の外
によるものだ。しかし共通してい
るの、心が通いあっていないと
屈しない向志
を持っている。

真に愛され、
いつくしまれ、
敢然と生きて
いる親、周囲
の中で、成長
することが出
来れば、ゆる
ぎない人間信頼の健やかな心が育
つものだ。

しかるに、高度経済成長の波に
押し流され、人の心は外へ外へと
つま先立ち、じっくり立止まって
自分の足元を見つめ、鍛錬を怠っ
てしまい、鍛錬され得なかつた犠
牲者がいじめっ子、またいじめら
れっ子だと言えるのではないだろ
うか。

人間がはじめたくなる心境とい
うのは、一つに相手の外見ばかり
見て、気にいらないと判断するも
の、二つ目は相手の内面を見て、

人には、短所・長所があるもの
だ。短所があつて長所が目立つよ
うになる。まず相手のいい面をみ
つけようと努力することが大切。
いい面がみつければ、人間は互い
に近づいていくものだと思ふ。
相手に近づこうとするには、勇
気があるだろうし、思いやりもい
ると思ふ。

しかしそんな事は気にしないで
誰とでもあいさつをすることから
始めてみることにだ。
誰もが気持良くあいさつをする
ようになれば、いじめという現象
もなくなつて行くように思ふ。



個性的な人間に

有馬船津 前田さとみ

三月二十日の卒業式を控え、残
りすくない小学生生活を、毎日惜
しむかの様に、日を数え、勉強の
締め括りや、学校行事に取り組ん
でいる姿を見ていますと、成長し
た我子を嬉しく思うと同時に、六
年間お世話になつた諸先生方への
感謝の気持と、名残り惜しさで胸
が一杯になります。特に六年生で
は恒例の行事の外に、体験学習と
して、菊作りを体験させて頂いた
事は、子供達にとつて半年間もの
長い間、先生の御指導の基に、一
つの目的を持って努力してきたそ
の力が、花の咲いた時の大きな喜
びとなり、自然の大切さ、すばら
しさを理解することが出来た様で

行動をおこそうとする時の子供
の目は、常に輝いていて一つのこ
とにひたむきに集中できる力を持
っている。すばらしいの一語につ
きる。またその感動が、明日への
希望を生むものと信じております
おかげさまでこの春、巣立つ子
供達も個性的ですばらしい人間に
育つてくれる事でしょう。
ありがとうございました。

思い出多い三小を後に

新山一丁目 峰 ツヤ子

月日が立つのは早いものです
子供の手を引き、本人以上に胸を
はずませて、三小の門をくぐつた
日から、あつという間に六年間が
過ぎようとしています。
育友会活動にも、いろいろ参加
させて頂き、多くの方々に知り合
う事が出来ました事を嬉しく思
います。

子供が二才の時、主人が突然急
死して一人で二役しなければなり
ませんでした。嬉しかった事、楽
しかった事、悩んだ事次々浮かん
で来ます。時には、子供に励まし

れ今では良き話し相手に成るよう
になりました。何もわからなかつ
たあの時の子供が、今はこんなに
立派に成長し、卒業されるのも校
長先生をはじめ、諸先生方の御指
導と感謝致します。
小学校卒業という一つの筋を迎
え、次のスタートラインに立つ子
供の後ろ姿を応援してやろうと思
います。
校長先生、諸先生方永い間本当
にお世話に成りました。
最後に、三小ならびに育友会の
御発展を心よりお祈り致します。

卒業にあたって

西八幡町

中鶴利昭

早いもので、親子手を引いて、
心はずませ、又不安をいだき入学
したのも、つい昨日のように思
出されます。

今年は、例年になく、行事も多
彩でありましたが、菊作りやもち
つき大会などでは、子供達自身に
人をいたわる気持とやさしい心が
身につつき、社会勉強として大いに
役に立った事と思われれます。殊に
菊科展では、皆様方も御存知の通
り大変すばらしいものばかりで、
それも先生と子供達との心のふれ
合いの結晶が、そうさせたのだと
思われ、深く感謝している所で
ございます。

現在、全国的に、学校や家庭の
いろいろのことがらが問題になつ
ている中で、これ迄何事もなく、
無事過してこれたのも、ひとえに
校長先生を初めとしまして、諸先
生方の深い愛情と、御指導のたま
ものでありまして、改めて衷心よ
り感謝申し上げる次第でございま
す。本当にありがとうございま
す。

最後になりましたが、今後とも
何かとご指導、ご鞭撻賜ります
ようお願い申し上げますとともに
第三小学校の益々の御発展と校長
先生並びに、諸先生方の、御健勝
を、心よりお祈り致します。

「友達」

六年一組

前田 美和

私が楽しく、学校生活をおくれたのは、友達がいたからです。友達がいたからこそなんでもできたんだと心の中で感じていました。でも、その反面、私は友達にいらいらしてあたったことがあります。口でほいほいいみやみをいったり、しらないうちに口からきずつく言葉をついたことが、なん回もあるだろうと思います。でもそれをたえてくれたのが友達です。

みなさんはどうですか、ほんとうの友達をもっていますか？ いっしょに遊ぶだけではなく、自分の心をよみとってくれる人、自分がほんとうにこまっている時、いっしょにたすけてくれる友達をもっていますか。

私は今、小学校生活をふりかえってみて、自信をもっていることは、今までいっしょにいた友達は、ほんとうの友達だったということです。

今まで、めいわくをかけたか、助けてもらった友達に今、心から「ありがとう、小学校生活とても楽しかったよ。」と言えます。中学へ行ってもいい友達を作り、楽しんで中学生を送りたいと思います。

長いよいうで

短い六年間

六年間を

ふりかえって

六年四組

有田 寿和

六年間をふり返ってみるといろいろなことがありました。入学式、遠足、大運動会、校内行事、諫早の宿泊訓練などといろいろとありました。しかし、ほくが今、一番心の中に残っていることは、やっぱり熊本の修学旅行です。あの、雄大な阿蘇の山々、草千里では、のびのびとした広さにおどろき、心がやすまるような気持ちになりました。そして、団体生活の難しさや友達との友情も育ちました。ほくにとって修学旅行は、たった一泊二日の短かい旅行でしたが最高の学習でした。

六年間の思い出

六年四組

汾陽 吾子

六年間の思い出といえば、五年生の時に行った国立諫早少年自然の家が心に残っています。みんなで輪になり、そして歌い、おどったキャンプファイヤー。そしてキャンプファイヤーが終ると、みんなといっしょに下におり男子も女子も関係なくひめいをあげおもしろくこわかったきもだめし。きもだめしが終わり、帰る時がもつとこわかった。夜はねむらずにみんなでわいわい、がやがやさわいで、先生が来ると、ねたふねむれませんでした。これが、六年間の私の一番の思い出です。

三年間の白山

バレーボール

クラブ

六年一組

松本 めぐみ

わたしは、幼稚園のときから、バレーがすきで、四年の初めごろから六年の最後までバレーをつづけました。バレーをつづけた中で、いくつも学びとったことがあります。「努力」「チームワーク」「喜び」「負けたときのくやしき」「フアイト」「ガッツ」などです。これはバレーだけじゃなく、いろんなことに役立ちました。たとえば、バレーの練習をして帰るとつかれて、すぐねむたくなるものがよくありました。わたしは、バレーで学んだガッツを出して、朝早く起きて勉強をして学校へ行くこともありました。

そして、白山バレーの中でとくに思い出に残ることは、全国大会の長崎県大会で準優勝になったことです。キャプテンとして最高の喜びでした。

もうひとつのバレーで楽しかったことは、いろいろな学校のバレーチームの人たちと、友達になれたことです。

白山バレーの三年間をふりかえってみて考えることは、「キャプテン」として最後まで、責任をはたせたかな。」ということです。

わたしは、中学生になっても、バレーを続けたいと思います。高校生になっても続けたいです。小学校の時からバレーを続けて、本当によかったと思います。

バレーをとおして、いろんなことを学びとり、これからもりっぱな中学生生活をおくりたいと思います。



六年間の思い出

六年二組 本多 照樹

学校に入学して一年生になり、六年生までいろいろな思い出がありました。入学して運動会、遠足、七夕祭りなど小学校で始めての行事で、なんでもが楽しいことばかりでした。

二年生になると、小学校生活もだんだんなれ、友達も多くできて毎日仲よし友達と遊んでいました。三年生では、組がえがあり、またいちだんと、友達ができましたが、くいちがいでけんかをして、泣かされたことも少なくありません。

四年生で、ぼくは始めて学級委員になりました。学級委員になり、仕事が増え、急がしい毎日でした。五年生では、はじめて諫早少年自然の家に宿はくしました。音楽祭も、オペレッタで、三小は評判になりました。

六年生でも修学旅行があり、本田技けんやプラネタリウム、修学旅行でいろいろなことを学びました。



菊作りやアネモネ作り、みんながんばって育てました。六年間の思い出は一生忘れられないことでしょう。卒業し、中学生になっても、思い出をいっぱい作りたいと思います。

出発

六年三組 江崎 亮介

昭和六十一年三月二十日、ぼくたち六年生は、三小を卒業します。そして四月から中学生。今までよりがんばらなくてはいけません。この六年間にはほくにとつて忘れることのできないすばらしい思い出がたくさんできました。特に心に残ったことは、五年生のとき諫早少年自然の家に行ったことや、六年生では、修学旅行に行ったり、菊作りをしたこと、それにもちつき大会もありました。また、市民音楽祭、運動会、校内マラソン大会、健康マラソン大会などもあります。ぼくの思い出はまだたくさんあります。

一年生から六年生までの間、ぼくたちはいろいろなことを学びました。今度は中学生になって勉強もスポーツも小学生のときよりがんばらなくてはいけません。ぼくたちは、四月から中学生として新しい出発をするのです。そして、りっぱな中学生になるためよいことはみんなで協力しあって最後までやり通していくことが大切だと思います。

三小で学んだことを忘れないように、希望をもってがんばります。さようなら、三小。

巣立つ時

六年三組 白浜 延子

六年間、私達を温かく見守ってくださった先生、そして住みなれた三小と後輩達ともお別れの時がせまっています。

私達は今、残り少ない時間をあれこれ、いそがしくせいっぱいの三小生活を送っています。こんな時、卒業していった先輩達の気持がよくわかるような気がします。その先輩の一人が、私に残してくれた言葉があります。それは、「先に行って待ってるよ。クラブ活動も私達ががんばって守っているからね。」と言って巣立ったのです。私は今、卒業を前にして先輩が残してくれたあの言葉が、とてもうれしく感じられます。

私は本当にすばらしい先輩を持つたしあわせ者です。私は三小を巣立つ者の一人として、後輩に良い先輩でありたいと心に決めながら、三小で六年間学んだ思い出を胸に、巣立って行きたいと思っています。

三小の先生や父兄のみなさん、永い間お世話になりました。ありがとうございます。中学生になっても一生懸命がんばります。三小の卒業生として、はずかしくないような中学校生活をおくりたいです。

卒業を前にして

六年二組 中川 由美子

あとわずかで卒業。そう思うと三小をはなれていくさみしさや、中学校へ進む期待と不安でいっぱいになります。

六年前の四月、三小へ入学してあつという間に六年生。修学旅行や一年生の給食当番、いろんなことをしたこの一年間が一番の思い出です。

五年生までは、先生が考えられた事に力を出し合いがんばっていたけれど、最高学年となると学年集会を開き、自分達で三小を良くするために話し合ったり、運動会の創作ダンスをみんなで作って踊ったり、考え大きな事をやりとげる力を身につけることができました。時には、先生方からしかられたこともあったけれど、今考えると、あの時自分のしたことを深く反省し、先生の注意は自分にとつて良かったんだなあと思います。この一年間、私が一番心に残っているものは菊作りです。「苦勞して仕上げる」と必ず身を結ぶ、というのを学びました。これは菊作りだけに限らず、勉強やスポーツも同じだと思います。これから先もこの行事は三小の伝統行事としてずっと続けてほしいです。

テレホンサービスの活用を

教養部長 友 永 峰 昭

教養部では、気楽に参加でき内容のある活動を目標に次のとおり一年間活動してまいりました。

- (一)七月三日 熊本(研修旅行へ参加者四十七名)
- (二)七月二十九・三十日町内訪問、八月七日同反省会
- (三)八月十日NTTテレホンサービス講演会
- (四)十月三十日教育講演会
- (五)十一月二十七日父親(母親)参観、十一月二十九日同反省会

特に研修旅行については、博物館のプラネタリウム、NTTの先進情報機器の展示、古墳のある民家村などを見学し、自然の中で古いもの又新しいものを見学出来たことは、有意義であったと思います。

そのほか、今年度はダイヤル一つで学校行事を知ることが出来るテレホンサービスについても部内で検討しましたところ、学校側の理解とNTTのご協力で依りまして、学校と家庭を結ぶ情報として実現しました。部員一同微力ながらも大変喜んでおります。誠にありがとうございます。

この一年間、皆様のご協力に依りまして、まずまずの成果の内に行事を終了できましたことに心より厚くお礼を申し上げ、報告と致します。

えり見て

心に残ったキャンプ講習会

生活部長 佐々川 清 憲

早いもので三月、各部との共催行事等含めて一年間の生活部の活動をふり返ってみますと、夏の暑い時期の町内訪問では、夜おそくまで熱心な話し合いが続き、今後の町内活動の参考になったことと思います。お蔭様でいじめ等の話は三小の中では耳に入ってきてません。

又、初めてのキャンプ講習会では、夜遅くまで多数の参加を得ました。飯盒の御飯の味は、今でも心の中に残っていることと思います。

夜は、若い先生を中心にレクレーションの講習があり、有意義な一日であったと思います。その後いくつかの町内ではキャンプ等実施され、講習会の内容が生かされたと聞いています。最後になりましたが、生活目標の揭示等では、各町内の皆様に御協力いただいたことを感謝するとともに、標語を書いていただいた校長先生にお礼を申し上げます。

熱意いっぱいのお母参観

学級部長 柴 田 ミ ホ

一年の経つのは早いもので、三学期も残りわずかとなって参りました。学級部の年間行事も皆様のご協力により無事終了する事が出来ました。

◎五月学級代議員研修会には、多数の方に出席していただき学級代議員の任務、集合の持ち方など、初めて代議員になられた方にはお役に立てていただけたいと思います。

◎七月学級対抗親睦バレーボール大会、お互いに親睦を深め、勝敗はぬきにして、笑いながらの楽しい一日でした。

自転車点検合格 七八・四%

交通部長 阿比留 寿 海

昨年四月より交通部を担当して早や一年になろうとしております。

交通部の主な行事内容としては、毎月五のつく日の交通指導、あいさつ運動、自転車の一斉点検、運動会当日の交通指導、自転車の正しい乗り方教室等を実施してきました。毎月五のつく日の交通指導につきましては、各町内の育友会々員皆様方のご協力を深く感謝いたしております。特に寒い季節の交通指導、本当にご苦労様でした。おかげ様で事故もなく本年度も終る事ができます事を喜んでおります。

あいさつ運動については、今の子供達は、感謝の気持がうすい様に思われます。

七月には自転車の一斉点検を実施いたしました。本年度は三四二台の自転車の点検を実施しました。合格は七八・四%で保険加入も八十%で例年になく多かったです。自転車の正しい乗り方教室は、日程の都合で十一月三十日(土)の午後から実施しました。

高原警察署及び島原交通安全協会の方々のご協力によりまして講話と個別指導をしていただきましたが、子供さん方にとっては、良い勉強になったのではないかと考えております。参加者が六十名程度でやや少ない感じがしました。せっかくの機会ですので、もう少し参加してほしいと思っております。

一年間、育友会の皆様にはご協力を頂きまして、本当にありがとうございました。

一年をか

キャンプ指導者

講演会を実施

体育部長 児玉勝利

本年度も、会員と子どもたちのための体育レクリエーションとして、子どもクラブ対抗球技大会、親子スポーツの日の相撲大会と親子フットベースボール大会、運動会での町内対抗リレー、町内対抗バレーボール大会を実施しました。どの大会も盛況で、役員さんをはじめ、会員の皆様の御協力を心から感謝します。また土俵整備作業には全町内から参加いただき、ありがとうございました。

さらに、本年度は新しい試みとして、「キャンプ指導者講習会」を実施しました。キャンプについての話を聞いたあと、実際に飯盒炊きやキャンドルファイヤーを体験しました。この企画は、会員研修の一環として、ともかく会員の皆さんに生の体験をしてもらおうと計画したものです。七十名近くの参加の皆さんは大喜び、来年以降も続けてほしいとの要望が寄せられました。指導にあたっていただいた三小の先生方に深く感謝します。

ところで、このような行事は、会員皆さんの共通理解があつてはじめて成果があるものです。特に町内育友会では、会員同志の連絡や話し合いを十分にやっていたり、よくお願いします。

運動場が広くなりました

環境部長 高見利則

六十年度環境部活動をスタート致しまして、早一年間無事終了する事が出来ました。これもひとえに会員皆様の御協力の賜だと思っております。

六月・九月の市民清掃への協力には、特に学校の先生方にゴミ袋の配布をお願い致しましてありがとうございました。

プールの周辺除草作業には、暑い最中多数の御参加を得まして予定時間より早く済み事が出来ました。七月に土俵整備を実施致しましたが、八月まで延び、九月の親子スポーツの行事に間に合

助かりました。

十月には、運動場整備作業に参加致しましたが、これは校長先生が各方面へ働きかけて下さって実施されたものです。内容は鉄棒及び遊具を移動し、運動場が拡張され校内でのスポーツをするのにたいへん便利になりました。

最後に夏休みに計画しておりました遊具ペンキ塗りを、事情がありまして春休みに実施し、桜の咲く頃には、明るい心で新年生を迎えたいと思っております。

おさかな教室

保健給食部長 松下和子

改めて魚をどんなふうにして食べるのだろうか?と見なおして講習会に望んでみました。

最近、塩分やコレステロール、それに、ミネラル脂肪等と、健康面で大変感心が高まっているようです。そんな折、気をつけなければならぬ成人病や脳卒中、心臓病等を、自分達が食べている食品で予防できるのを、もう一度考えて食卓に取り入れて頂きたいと思えます。

特に今回使用しましたイカやイワシは、タウリンというアミノ酸が多く含まれて、血中コレステロールを低下させるので、

皆さんも使用して下さいはいかがでしょうか?

今回は、育友会だけでなく、婦人会一般、それに保育園と広く呼びかけて合同で一緒に作りましたが、それ以外のグループに別れてすぐく楽しい気分いの中で好評でした。早速利用しなくては、忘れないうちに作る等と皆さん大変感心が高いようでした。

残念ながら育友会の参加者が、当日欠席の多かった事です。無料で参加して自分達の役に立つ、それで割引券まで頂き大変有難いと思えました。

話題はいつも

子どもたち

広報部 坂庭克雅

広報誌「がんば」も、第81号から第85号まで、年間五回の発行を無事終えることができ、部員一同ほっとしています。

年度当初は、やる気と不安が入り組んだ複雑な心境ではなかったかと思えます。少しでも新しいアイデアをひねり出し、興味を持って読んでいただけるのをと、毎回遅くまでがんばりましたが、結果を見ると、必ずしも思うようにはいかず、つくづく、広報誌づくりのむずかしさを感じさせられました。

しかし、作業を進めながら、地域や学校の中のいろいろなできごとが話題にのぼり、また、子どもたちの姿を心の中に描きながら、たいへん有意義な時間であったと思えます。また、広報部の仕事を通して、お互いに親しく話を交える機会を得たことも有難いことだという気がします。

最後に、広報誌への原稿依頼に際して、心安く協力して頂きました皆さんに厚くお礼申し上げますとともに、これからの「がんば」の充実を願って一年の反省と致します。

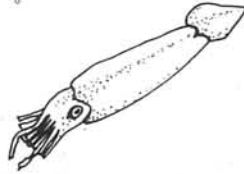
おさかな料理講習会

浦田上 安 永 三代子



子供のおたよりに、「さかな料理講習会申し込み」とあり、食べる事には目がない私、早速申し込み、子供に参加出来るかどうかの返事は、まだかときいそ

く。当日(三月五日)実習しました献立は、「いわしの燻魚」「いかの和風サラダ」「舌びらめの変わりムニエル」の三品。魚屋に行く、すぐ手にはいる材料で、手軽に出来るものばかりでした。調理室は人人人でワイワイ、ガヤガヤ、試しながら、「今日このサラダを作ってみよう」「おもったよりおいしだね」等々。魚の種類を変えると、また違ったおいしさが発見できるかもしれません。家庭からの魚離れが叫ばれて久しい今日、バランスの摂れた食事と見直されてる日本食、人間は、三里四方の食物を食べるのが自然で健康にいい」と本で読んだ事があります。幸い島原は、海・山に近く新鮮な魚・野菜がすぐ手にはいります。母親手作りの料理に、TVのコマーシャルではありませんが「愛情」の調味料を、たっぷりかけて家族に食べてもらいたいと思ってます。今回の準備をなされた方々は、大変だった事でしょう。ありがとうございました。次回の企画を楽しみに待っています。



餅つき大会

新山二丁目 出口 一三男

天気も肌寒い餅つき大会でした。初めての餅つき大会に参加して、子供も大人も元気でついているすがたを見て、とてもすがくしい思いでした。私達も子供の頃、父親がついているのを見て手伝ったものです。六年生の良い思い出になる

事でしょう。現在ではみんな機械でついているようですので、忘れかけた教育とでも言いましょうか。若い頃を思い出しました。子供達も楽しそうに餅つきしたり丸めたり楽しい一日でした。最後に一言、父兄の皆様も、もうすこし協力的な姿勢を持ってもらいたいですね。

「本好きの子ともを育てる」講演会に参加して

一年担任 古賀典子

昨年四月、初めての一年生を担任することが決定した時、私は、「子どもたちにたくさんの本を読んであげよう。」と思いました。そして、事情が許すかぎり、ほとんど毎日、絵本の読み聞かせをしています。小さい子どもたちは、本当に本が大好きです。多くの本にふれて、このまま大きくなつて欲しいと思



島原市民文化講座
講演を聴いて、私は、本好きの子どもを育てるためには、子ども自身が本好きになることが、一番大切ではないかと思

い、この講演会に参加しました。講師の大塩先生が、まず初めに強調されたことも、「子どもは本来本が大好きなのだ。」ということでした。子どもが、本を讀もうとしない時、その原因は、むし

編集後記

今年度最後の「がんば」85号をお届けします。

81号は新任教師の自己紹介と各専門部の活動方針。82号からは各部の活動報告と校医渡部先生の「むし歯の話」。

83号、大隅先生の「アメリカカナダ視察記」。84号、父親参観の様子などを掲載しました。そして、85号は卒業生の親と子の六年間の思い出や、中学生になる喜びを、各専門部には一年間のしめくりをして頂きました。

皆さんの一年間はいかがでしたでしょうか。子どもたちはそれぞれに身も心も大きく成長しています。親の方は、毎日のごまごまとした事にばかりとらわれて、子どもに不満をぶつけてばかりではないでしょうか。もっとゆったりとした大らかな気持ちで見守ってやりたいものです。そのために、親と子の心と心を通わせることが大切ではないでしょうか。この「がんば」がその一助になればと願って編集してきました。

ご多忙中、快く原稿をお寄せ頂きました皆さん、ありがとうございました。今後共、一層のご協力をお願い致します。

広報部(S)